

サービスラーニングを通して

社会福祉学部保健福祉学科 2年 川村 容子

活動先名：NPO 法人 ゆいの会

クラス：松下 典子 先生

はじめに

私は、大学生活 4 年間の中で何か一つボランティア体験をしてみたいと思い、サービスラーニングを選んだ。実際に活動を行うと、様々な人と出会い、交流する中で自分自身の成長に繋がっていったのではないかと思う。

1. 自分の成長と気づき

私が、活動を通して成長した事は、利用者さんとコミュニケーションを取る際に、自分から話しかける、積極性を身につける事の大切さを学んだことである。活動初日は、ただ緊張してしまい、職員さんの指示がなければ、何も行動を起こせずにいた。私は、そこで職員さんが利用者さんに対してどのような態度で接しているのか観察してみた。すると、職員さんが、利用者さんに笑顔で挨拶をし、そこから会話が広がっている事に気付いた。私は、次の日の活動までに、挨拶から始めてみようと思い、おはようございますの一言から、利用者さんに話しかけてみた。すると、利用者さんも笑顔で受け答えをしてくれて、会話が広がる事が出来た。私は、その日を機会に、活動先で出会う利用者さんに対して、表情を意識しながら、挨拶から始めようと思った。ただ、待っているだけではなく、自分から利用者さんに対して、関わっていく事が重要であると感じた。そこから、沢山、可能性が広がっていく事を、活動を通して学ぶ事が出来た。私は、この日を機会に、挨拶をする事を心掛けている。また、コミュニケーションを取る上で、大切な事はもう一つある。相手の話をしっかり聞く事である。相手の話をしっかり聞き、コミュニケーションを取る事によって、相手の事が色々分かってくる。常に、相手の気持ちを忘れない事が重要である事を学んだ。

この他にも、ヘルパーさんと一日を共にし、訪問介護の現場を体験する機会があった。私自身、ヘルパーの体験をした事がなく、現場の実態が分からないまま行く事になった。実際に現場へ行ってみると、一人暮らしの高齢者が多いことに気付いた。主に、介護ヘルパーさんの仕事は、利用者さんの生活面でのお世話や話し相手になる事であった。

ヘルパーさんが利用者さんの自宅へ訪問すると、表情が明るくなり、楽しそうに世間話をされている姿が印象に残っている。これらの事から、ヘルパーさんと利用者さんの信頼性が成り立っていると感じた。また、利用者さんが、今必要としている事は何か、ヘルパーさんが利用者さんに対して常に気を配って行動をしている姿が印象に残っている。私は、今回の活動を通して、お互いが信頼し合うからこそ、より良い関係が作られていくのではないかと感じた。相手の立場を考えながら、行動する事の大切さを学ぶ事ができた。

活動の中でゆいサロンを体験し、居場所作りの重要性を感じた。ゆいサロンは、高齢者の方を対象に、自由にお話しが出来る場である。サロンに参加している高齢者の多くは、常に笑顔で、安心なさっている様子で楽しそうにお話しをされている姿が印象的に残って

いる。私は、これらの光景を観察し、高齢者が安心して、くつろげる場所がもう少し増え、住みやすい街を作る事が大事であるのではないかと感じた。

最近では、一人暮らしの高齢者が増えてきている。外出をしない人は、話が出来る場所が、無くなってきているのではないかと思う。そのような人達にとって、規則などがなく、自由に話をする事が出来る場所というのは大事であると活動を通して感じる事が出来た。サービスラーニングの活動の中で、活動日誌を書く事が一番難しかった。活動中は、何も考えておらず、一日の行動を成し遂げるのが精いっぱいであった。その結果、活動日誌には、自分の視点から見て感じた事しか書くことができず、もう少し周りの意見を聞き、広い視点を持ちながら活動を行えば良かったなと思った。活動を終えた後は、反省点が多くあったが、楽しく活動をさせてもらい、良い経験ができた。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

さをり織りが有名であり、外に出向き、地域の人に魅力を伝えている。また、愛地球博にも出展された事があり、地域に貢献している。しかし、施設のスタッフさんが、優しくアットホームな雰囲気であるのに、施設の中までは、あまり地域の人に知られていないのではないか。誰でも自由に施設を見学出来る時間を設け、地域の人に施設の魅力を伝える事ができたら良いなと思う。沢山の方にゆいの会について知って貰いたい。

ゆいの会で働く職員さんの多くは女性が多く、男性の職員さんが比較的少ない事に気付いた。そのため、女性の権利が強くなってしまい、男性の居場所があまり無いのではないか。また、利用者さん側を見ると、やはり女性が多く、男性が入る隙が無いと感じた。私は、男性の職員さんを増やすべきではないかと考えた。女性の意見だけではなく、男性の視点から見る NPO を知る事によって、より良い NPO が作られていくのではないかと思う。また、男性の利用者さんも安心して、参加出来ると考える。

もう一つ地域の人々に NPO を理解して貰うための取り組みがある。それは、他の NPO 団体を交えて、地域の人達が今必要としている事は何かを考え直す事ではないかを感じる。現代では、高齢者の介護の問題や、高齢者の孤独死など、住民が抱えている問題は多い。地域の方の視点から見て、安心して住みやすい街とは何かを考えるべきなのではないか。

最後に

私は、福祉の分野の中でも、主に障害児の分野に興味があり、高齢者の分野にはあまり興味を持たずにいた。しかし、活動を行っていくうちに、高齢者の分野にも興味を持った。ゆいの会のスタッフの方々には、わたしたちを温かく迎えてくださり、分からない事などを丁寧に教えて下さって、NPO の現場を知り、学ぶ事が出来た。

学校の講義では知る事が出来ない、現場の声を聞く事によって、NPO の実態を分かる事ができ、改めて、NPO は、地域の協力が無ければ成立しない事も分かった。地域の人々、家族の協力があるからこそ、NPO が成立するのだと私は思う。

本当にありがとうございました。